

三股町の民俗芸能

三股町の民俗芸能は、古いものだと約400年前から始まったといわれています。しかし、これは言い伝えでしかなく、資料もなく確証はありません。

民俗芸能は、現代のようにビデオで映像記録を残すことはできませんでしたので、保存会を作り、芸能を継承し、保存するようになりました。踊りの種類はたくさんありますが、「ヤマ」と呼ばれる伴奏者の三味線や太鼓の伴奏に合わせて踊るのが基本です。

棒踊り

棒踊りは、4月29日(昭和の日)の早馬まつりなどで踊られます。踊り手の多くは男性ですが、長田の轟木郷土芸能保存会の「薙刀鎌踊り」は、現在女性が踊っています。同じ棒踊り・奴踊り(手踊り)でも、歌や踊り方は地域によって違うものがたくさんあります。



ジャンカ馬踊り

鹿児島県国分地方から伝えられたというほかは、詳しい由来はわかっていません。馬踊りは、山にいる作神を招くため馬を使い、馬に大地を踏ませることにより、大地の神を目覚めさせ、豊作と牛馬安穏を祈る神事芸能であるといわれています。

このとき、猿を山の神様とし、作物が花のように実るように願い、現在では猿の人形や花飾り、米俵の作り物をつけて馬を飾っています。さらに鈴もつけていますが、この鈴の音が「ジャンカラン、ジャンカラン」と鳴ることから「ジャンカ馬」の名前が付けられたとも言われていますが、これは新しい呼び名です。



太郎踊り

この踊りは、江戸時代の文政3年(1826年)頃に始まったといわれています。作り物の牛や農耕用具を使い、耕作の様子を演じて豊作を祈ったのが由来とされています。その配役は、父、母、兄弟、牛となっていて、牛のまわりで踊るのが兄弟たちであるので、「男の子(太郎)の踊り」と言われたのが、この踊りの名前の由来ではないかといわれています。



三股町の民俗芸能一覧表

種類	踊り名	保存会名	主な実施場所	主な実施時期
風	新馬場棒踊り	新馬場棒踊り保存会	早馬神社	4月29日
風	上米満棒踊り	上米棒踊り保存会	早馬神社	4月29日
風	仮屋棒踊り	仮屋郷土芸能保存会	御崎神社	4月3日
風	轟木薙刀鎌踊り	轟木郷土芸能保存会	御崎神社	4月3日
風	大野棒踊り	大野郷土芸能保存会	不定	不定
風	梶山棒踊り	梶山棒踊り保存会	御崎神社	4月5日
風	餅原棒踊り	餅原郷土芸能保存会	不定	4月第1日曜日
風	蓼池奴・俵踊り	蓼池郷土芸能保存会	蓼池早馬神社	4月3日
風	田上俵踊り	田上郷土芸能保存会	田上集落センター	集落祝賀行事
風	小鷺巣大太鼓踊り	小鷺巣大太鼓踊り保存会	不定	地区祝賀行事
田	谷太郎踊り	谷地区太郎踊り保存会	早馬神社	4月29日
そ	中米満ジャンカ馬踊り	中米郷土芸能保存会	早馬神社	4月29日
そ	櫟田馬踊り	櫟田馬踊り保存会	早馬神社	4月29日

- 上表は、平成22年4月の時点で三股町教育委員会が把握している保存会の一覧表です。『三股の民俗芸能』(平成3年発行)掲載の11団体から2団体増えました。本が作成された平成3年から19年経過する間に、名称が変わった団体もあるようです。これらの保存会がなければ、踊り方も歌もわからなくなっていたでしょう。
- 上表1行目の「種類」欄に、「風」「田」「そ」とありますが、これは民俗芸能を分類したものです。「風」とは「風流踊り」のことで、棒踊り・念仏踊り・盆踊り・太鼓踊りなどがあります。「田」とは「田楽」のことで、田遊び・田植え踊りなどがあります。「そ」とは「その他」のことで、馬踊りが「その他」に分類されていますが、風流踊りとも言えます。
- 民俗芸能は、一般の人たちが豊作を祈ったり、人々の健康を祈ったり、牛馬の健康を祈ったりして踊ったものです。堅苦しいものではありません。
- どの地域でも課題の一つに挙げられるのが、後継者不足です。三股町では、町内の小中学校の運動会で生徒たちが民俗芸能を披露しています。練習は保存会の指導のもとに行い、郷土愛を育む教育の一環として継続されているようです。生徒の中には、大人になって保存会に入る方もいるようで、後継者不足の問題解消につながれば、未来に三股の民俗芸能を伝えていくこともできるでしょう。※『広報みまた 2010 vol.483 11月号』に掲載されている「子どもは地域の宝」を参考にしました。合わせてご覧ください。
- 三股町では、平成17年度に財団法人全国市町村振興協会・財団法人地域創造の助成を受け、地域伝統芸術等保存事業によりビデオ・DVDを制作しました。町内の民俗芸能を記録保存した貴重な資料となりました。三股町立図書館で閲覧できます。

名称:『三股町に伝承される郷土芸能 悠久の時を越え』(各保存会のビデオもあります)